

INTERVIEW

佐渡汽船株式会社 営業部 PR推進室 主任

こばやし きょうこ

小林 響子 氏

佐渡汽船シップマネジメント株式会社 三等航海士

きたの きょうか

北野 京香 氏

船と海、そして佐渡への思いを 情熱に変え活躍する女性たち



PROFILE

小林 響子 (写真左)

1988年新潟市生まれ。大学を卒業後、2011年佐渡汽船株に入社。庶務課を経て予約管理課に在籍中、2017年発足のPR推進室初期メンバーに選ばれる。現在は営業企画課と兼務。

北野 京香 (写真右)

1995年富山市生まれ。富山高等専門学校商船学科航海コースを卒業し、2016年佐渡汽船シップマネジメント株に入社する。現在、三等航海士としてカーフェリーに乗務。

「佐渡を盛り上げたい」という思いで、女性チームによる広報活動を行う小林響子さん、佐渡汽船の三等航海士として3年目を迎える北野京香さん。「船と海が好き」というお二人の話からは、仕事への情熱が伝わってきました。



佐渡汽船株式会社

〒950-0078 新潟市中央区万代島9番1号
TEL 025-245-2311 FAX 025-243-8307
<https://www.sadokisen.co.jp>

佐渡汽船シップマネジメント株式会社

〒950-0078 新潟市中央区万代島9番1号
TEL 025-245-7211 FAX 025-247-5368

佐渡汽船に乗船するお客様の安全を守り、船内と佐渡を楽しんでもらえる取組をしていきたい



「かわいい」と評判のオリジナルグッズを開発した、PR推進室のみなさん。女性目線ならではのこまめな情報発信やキャンペーンも好評。今後は県外でのPRイベントも積極的に行いたいという

◎小林響子さん

佐渡のいろいろな魅力を発信していきたい

佐渡汽船(株)PR推進室は「佐渡をPRする新たな企画や宣伝を女性目線で進めてほしい」という同社の方針で、2年前に女性チームとして発足。SNSを活用した情報発信をはじめ、ブログや手描きのフリーペーパー「佐渡は東京23区よりも広いよ新聞」の企画、取材などを女性社員6人で手掛けている。「メディアにはあまり取り上げられていない店とか観光スポットにも光を当てたい。佐渡にはいろいろな魅力があるということをPRするように意識しています」と、メンバーの小林響さんは話す。

推進室では船内イベントの企画にも力を入れ、昨年の「いちごづくしinときわ丸」では、佐渡産苺や島内の菓子店が作る苺スイーツを船内で販売。このイベントと絡めた婚活ツアーも行うなど、斬新な企画で若い世代や女性から好評を得た。

この秋には「PR推進室と行く佐渡ツアー」を企画予定。今年春に発売した佐渡汽船オリジナルグッズが好評なことから、新商品の開発も考えている。「この仕事は自由にアイデアを出せて、実現できるのがやりがい。みんなで協力して出来上がっていくのが楽しいです」と小林さん。これからどんなアイデアが形になっていくのか楽しみだ。

◎北野京香さん

夢はジェットフォイルの船長になること

「子どもの頃から大きな船を見るのが好きで、自分も操縦できたらと思っていました」と話す北野京香さんは、佐渡汽船では2人目となる女性の航海士として入社。今では「自分で船を動かせることにやりがいを感じる」というが、初めての航海では責任の重みで「何が何だか分からないほど緊張した」という。「波が高くなると船を港にもっていくのも難しいですし、コース取りもいろいろ考えないといけないので気象が悪いときは大変です」。人の命を預かる航海士として仕事に責任感を持つことを、何よりも大切にしている。

勤務は長くて2週間ほど乗船したままで、下船後5日間休みという特殊なサイクル。さらに女性船員は北野さんと機関部員の2人だけという男性中心の職場だが、「やりにくいと感じたことはないです」と話すように、当直のときに乗組員同士でいろいろな話ができることが楽しいそうだ。

「ジェットフォイルの船長になるのが夢。そのためには経験を積み、この人なら大丈夫と認めてもらわないと船長は務まりません」と、きっぱり語る北野さん。その夢に向かって、着実に歩みを進めていこう。



おけさ丸